令和２年３月３１日

別添１

令和元年度　特別の教育課程の実施状況等について

|  |  |
| --- | --- |
| 栃木県 |  |
| 学　校　名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 那須烏山市立江川小学校那須烏山市立荒川小学校那須烏山市立境小学校那須烏山市立烏山小学校那須烏山市立七合小学校 | 那須烏山市教育委員会 | 公 |

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 自己評価結果の公表 | 学校関係者評価結果の公表 |
| 江川 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esegawa/学校評価 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esegawa/学校評価 |
| 荒川 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esarakawa/学校評価 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esarakawa/学校評価 |
| 境 | https://nasukarasuyama.ed.jp/essakai/学校評価の結果 | https://nasukarasuyama.ed.jp/essakai/学校評価の結果 |
| 烏山 | https://nasukarasuyama.ed.jp/eskarasuyama/学校評価 | https://nasukarasuyama.ed.jp/eskarasuyama/学校評価 |
| 七合 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esnanagou/学校評価 | https://nasukarasuyama.ed.jp/esnanagou/学校評価 |

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

　　・市内全小学校第１学年から第４学年に「英語コミュニケーション科」を実施しました。

　　　第１学年及び第２学年は「生活科」を年間１７時間削減し、「英語コミュニケーション科」に充てる。第３学年及び第４学年は「総合的な学習の時間」を年間２０時間削減し、「英語コミュニケーション科」に充てました。

　　　「英語コミュニケーション科」は、広い視野とコミュニケーション能力を身につけ、自信と誇り、夢と希望をもって明日を切り拓こうとする子どもの育成を目指しています。身近な英語に親しみながらコミュニケーションを図る楽しさに気づき、英語を通して外国の言語や文化、自国や郷土の文化に興味がもてる子どもを育てます。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

　　・本市児童の実態として、コミュニケーションへの積極性や表現力に課題があります。社会のグローバル化、国際化に対応する人材の育成のために、一貫した方針のもとに広い視野で物事を見、考える姿勢や態度、豊かなコミュニケーション能力の育成が必要です。そのため、英語という言語を用い、コミュニケーションを図る活動を通して広い視野と豊かなコミュニケーション能力を養うことを目指しています。

（３）特例の適用開始日

　　・特例の適用開始日（市内公立小中学校９校）：平成２０年４月１日

（構造改革特別区域認定による特例の適用開始日：平成２０年４月１日）

・変更した特例の適用開始日（市内公立小中学校９校）：平成２１年４月１日

・教育課程特例校の指定廃止（市内公立中学校４校）：平成２４年３月３１日

・教育課程特例校の継続（市内公立小学校５校）：平成２４年４月１日

（４）取組の期間

　　・平成３２年３月３１日まで

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

　　　〇計画通り実施できている

　　　・一部、計画通り実施できていない

　　　・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

　　　〇実施している

　　　・実施していない

４． 実施の効果及び課題

　　　那須烏山市教育振興ビジョンにおける基本理念「夢をもち、夢の実現に向けて歩む力をはぐくむまちづくり」の実現のためにも、児童一人一人が自らの思いを自由に表現できることが重要と考えています。担任の先生、ＡＬＴとの楽しい英会話を通じ、表現することの楽しさ、認めてもらうことのうれしさを十分に味わうことができたと感じています。

５．課題の改善のための取組の方向性

　　　令和２年度からの新学習指導要領実施のため、「英語コミュニケーション科」は、１・２年生において予備時数の中で実施します。３・４年生は外国語活動が年間３５時間実施されます。

　　　特別の教育課程による実施は令和元年度で終了となりますが、１年生から英語を通じて広い視野と豊かなコミュニケーション能力を育んでいく取り組みに変わりはありません。

　　　英語学習が本格化する中ですが、本市としては、英語はコミュニケーションツールの一つであると考えています。自ら豊かに自然に自分の思いを表現できる児童の育成を今後も図っていきます。